

絵本で命の大切さ訴え

水戸市 上大野小 画家と作家、読み聞かせ

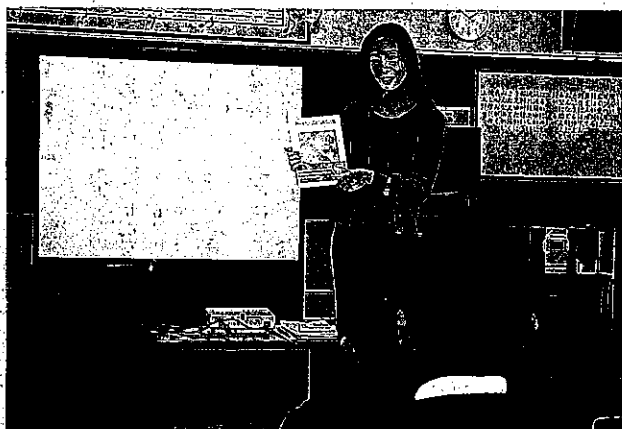


自殺予防対策の一環として、命の大切さを訴えた絵本を制作した画家と作家が27日、水戸市東大野の市立上大野小(校長 児島数70人)を訪れ、絵本の読み聞かせを行った。2人は「悩み事ができたら、一人で悩まず、誰かに相談しよう」と呼び掛けた。

訪れたのは画家の夢ら丘実果さんと、作家の吉澤誠さん。2人は「カトくん」と森のなかまたち」を制作。内容は取りえがないことに悩むカト君の「カトくん」が仲間を励まし、自らの絵本の読み聞かせを行い、子どもたちに命の大切さを訴える夢ら丘さん、水戸市立上大野小

病気を患い、いじめを受けた体験などを披露。家族らの支えを受け、立ち直った経験を説明した。その後、ゆつくりとした口調で絵本を読み、「勉強が苦手でも体育が得意な子もいます。みんなには必ず何かいいところがあります。友達の良いところを見つけてください」と語り掛けた。子どもたちは静かに耳を傾け、互いに助け合う大切さを学んだ。

4年生担任の齋田由加里教諭は「3、4年生は他人と比べ、コンプレックスを持ち始める時期。相手を思いやる気持ちが育てばいい」と期待。吉澤さんは「自殺予防対策を学校で教える機会は少ない。対策を行えば、必ず効果がある。小さい時から知っておく必要がある」と重要性を強調した。(小池忠臣)



3、4年児童に読み聞かせをする絵本作家の夢ら丘さん
水戸市東大野の市立上大野小学校

「いのちの大切さ伝えたい」

水戸の小学校 絵本作家が読み聞かせ

13年連続で年間3万人以上が自殺する状況が続いているが、自殺は大人だけの問題ではない。警察庁によると2009年度に自殺した小中高生は306人、小学生1人、中学生79人、高校生226人。本県でも、2010年度には5人も自殺する状況が続いている。自殺の問題は、はじめ複数の県で、公立の小学校に配布され、道徳の時間などに読み聞かせが行われており、取り組んだことでは不登校の生徒がゼロになったという報告もある。同校では、全校児童が2班に分かれ、読み聞かせの授業を受けた。授業後は、それぞれが感じたことなども発表。3年生の女子児童は、「もしも誰かが一人で悩んでいたら相談に乗ってあげよう」と思いました。自分が悩んだときも、誰かに相談に乗ってもらってほしい、と決めた。大切な命をなくしてはいけないと思いましたが、友達や先生の温かい言葉や愛情で自分の良さに気づき、自信を取り戻して、くっつく内容となりました。出版後、反響を呼んだ夢ら丘さんの本は、和歌山県から4人への調査も出ている。自殺の問題は、タフ

13年連続で年間3万人以上が自殺する状況が続いているが、自殺は大人だけの問題ではない。警察庁によると2009年度に自殺した小中高生は306人、小学生1人、中学生79人、高校生226人。本県でも、2010年度には5人も自殺する状況が続いている。自殺の問題は、はじめ複数の県で、公立の小学校に配布され、道徳の時間などに読み聞かせが行われており、取り組んだことでは不登校の生徒がゼロになったという報告もある。同校では、全校児童が2班に分かれ、読み聞かせの授業を受けた。授業後は、それぞれが感じたことなども発表。3年生の女子児童は、「もしも誰かが一人で悩んでいたら相談に乗ってあげよう」と思いました。自分が悩んだときも、誰かに相談に乗ってもらってほしい、と決めた。大切な命をなくしてはいけないと思いましたが、友達や先生の温かい言葉や愛情で自分の良さに気づき、自信を取り戻して、くっつく内容となりました。出版後、反響を呼んだ夢ら丘さんの本は、和歌山県から4人への調査も出ている。自殺の問題は、タフ

経験者多々の子どもたちに伝えたいと2007年9月10日の世界自殺予防デー「カーくん」との森のなかまたちを出版した。原作と絵を夢ら丘さんが担当し、知人を自殺で亡くした経験を持つ文筆作家の吉岡さんが文章を担当した。絵本は内容

の高校生が自殺で亡くなった。自殺を讀み、命はかけがえない、大切な命は、市町村や筑波大学、医療機関などと連携し、相談支援体制の強化や、人材育成、普及啓発などを柱にした自殺予防対策に力を入れているが、教育庁としても子どももの自殺も未然に防ぎたい、回復した経験を持つ、その

の高校生が自殺で亡くなった。自殺を讀み、命はかけがえない、大切な命は、市町村や筑波大学、医療機関などと連携し、相談支援体制の強化や、人材育成、普及啓発などを柱にした自殺予防対策に力を入れているが、教育庁としても子どももの自殺も未然に防ぎたい、回復した経験を持つ、その

(藤田久美子)